

令和4年度（第71回）「神奈川文化賞」及び 「神奈川文化賞未来賞」の受賞者プロフィール

神奈川文化賞

くろき としお
黒木 登志夫 (86歳)

●医学●

医学や生命科学の振興と
普及に貢献



1978年から川崎市に在住。1960年東北大学医学部卒業、1961年から2001年まで、3カ国、5つの研究所でがんの基礎研究に従事した。東京大学医科学研究所教授、同大学名誉教授、岐阜大学学長、同大学名誉教授、日本癌学会長などの要職を歴任。現職は、独立行政法人日本学術振興会学術システム研究センター顧問。WHO国際がん研究機関（フランス）、ウイスコンシン大学がん研究所（アメリカ）など、国際的にも活躍してきた。

主な業績は、①世界で初めて化学発がん物質による試験管内発がんに成功 ②WHOにおいてアスベストなどヒト発がん物質を同定 ③細胞の分化メカニズムの解析 ④岐阜大学学長として法人化後の大学改革 ⑤文科省世界トップレベル研究拠点（WPI）事業のプログラムディレクターとして世界トップの9研究拠点を創設 ⑥川崎市市民アカデミーで毎年生命科学のセミナーを実施 ⑦サイエンスライターとして、がん、研究不正、コロナ、論文の書き方などの解説書10冊を中公新書、岩波新書から出版、等。

現在は、コロナ問題に関する情報発信『COVID TK-File』（山中伸弥氏のコロナサイトに転載）を行っている。

[川崎市]

神奈川県文化賞

ふくもと いちろう
復本 一郎 (79歳)

●文学●

近世・近代俳論の研究に尽力
するとともに若い世代への発
信に寄与



横浜市で育ち、1972年、早稲田大学大学院文学研究科博士課程修了。文学博士。

主要著書に「鬼貫の「独ごと」」(岩波文庫)、「歌よみ人 正岡子規一病ひに死なじ歌に死ぬとも」(岩波現代全書)、「俳句と川柳」「芭蕉の言葉」(以上、講談社学術文庫)など。産経新聞のテーマ川柳選者、2012年から神奈川新聞の俳壇選者を務め、現在に至る。公益財団法人神奈川文学振興会評議員。1998年実験的俳句集団「鬼の会」を立ち上げ、機関誌「鬼」を創刊。2018年に終刊するまで、20年間、代表を務めた。同会の活動は少人数に限定した俳句集団「阿」に引き継がれ、同会の代表を務めている。

2009年、神奈川大学を早期定年退職し、名誉教授となる。2022年、「正岡子規伝—わが心世にしのからば」(岩波書店)に対して伊賀市・公益財団法人芭蕉翁顕彰会より令和4年度第76回芭蕉祭文部科学大臣賞を受賞。

神奈川大学が1998年に創立70周年を迎えたことを記念して創設した「神奈川大学全国高校生俳句大賞」では、選者を務め、日本の伝統芸能であり短詩型文学である「俳句」を通して、高校生に独自の感性で表現する機会を提供することで、高校生文化の発信に寄与するとともに、俳句に親しむ若い世代の掘り起こしに貢献している。

[横浜市]

神奈川文化賞

とみの よしゆ き

富野 由悠季 (80歳)

●芸術●

アニメーションを文化として発
展させた功績



撮影：鈴木心

アニメーション映画監督・脚本家・演出家として、多年にわたり数多くの作品を発表している。小田原市出身で、父は旧日本軍関連の軍需工場に勤務しており、高高度で飛行する戦闘機パイロットが着用するための与圧服の研究・開発等に携わっていた。父が残した与圧服の研究資料と太平洋戦争が日本敗戦で終わった 1945 年、氏が満 4 歳の時に、東京方面に空襲に向かう B29 の姿が、戦争の記憶である。宇宙服を連想させるそれは、富野少年の視覚的原体験となり、その後制作することとなるアニメーション作品の世界観の礎となった。

『機動戦士ガンダム』などの作品やキャラクターも小田原の風土から影響を受けている。

2021 年 7 月、小田原のふるさと大使に就任し、その縁から 2022 年 2 月に小田原市民功労賞を授与された。

2021 年、観光戦略の一つとして小田原市が設置したガンダムをデザインしたマンホールは話題となり、市内の盛り上げに一躍買った。アニメーションによる観光振興を図るアニメツーリズム協会の会長でもある。

ガンダムは国や地域、世代を超えて人気となっており、プラモデルに留まらず、ガンダムの放送 40 周年を記念して実物大の動くガンダムが横浜市の山下ふ頭に建てられている。

2021 年 文化功労者に選出。

[東京都]

神奈川文化賞

しどお あきひこ
志藤 昭彦 (79歳)

●産業●

自動車産業の発展への貢献と
ダイバーシティの推進



自動車のサスペンション部品メーカーである株式会社ヨロズの第3代社長（1998～2008年）として、車両構想・企画段階から共同開発に参画し、製品設計、解析、試作、実験、金型・治工具製作そして製品製造から品質保証までを行う、独自の「トータルプロダクションシステム」を生み出した。長年の納入先であった日産自動車は再建計画として発表した「日産リバイバルプラン」で系列が解体された後も、2004年には「独立系」自動車部品メーカーとして歩むことができた。現在では日系自動車メーカー11社すべてと海外有力自動車メーカーとも取引を拡大し、国内7社、海外14社計21社、全従業員約6,000人の国際的な企業に育て上げた。

また、海外に数多くの生産拠点を有することから、社員の「ダイバーシティ」にいち早く取り組み、女性活躍推進法に基づいて厚生労働省が優良企業を認定する「プラチナえるぼし」を県内初、全国の製造業で初めて取得。このほか政府による「2050年カーボンニュートラル（CN）宣言」を受け、2021年に「ヨロズグローバル環境ビジョン2040」を発表し、2040年に生産工程のCO₂排出ゼロを目指すなど、日本を代表する自動車部品メーカーとして業界を牽引している。

[横浜市]

神奈川文化賞未来賞
神奈川県立相模原
弥栄高等学校美術
部

●芸術●
全国的な学生美術展における
活躍



1983年開校と同時に創部。2008年4月に弥栄東・西の両校が統合し、芸術科も設置された集合型専門高校「神奈川県立弥栄高等学校」として再編された。

その後、2020年4月に神奈川県立相模原青陵高等学校と再編統合し、美術科を含む4つの専門学科をもつ、単位制の全日制高等学校「神奈川県立相模原弥栄高等学校」となる。

2022年2月開催の第66回全日本学生美術展において、2021年度に引き続き2年連続で団体部門の最優秀賞である「全日本学生美術会賞」を受賞したほか、個人部門でも最も優秀な賞となる「推奨」を3作品、続く「特選」を4作品、「佳作」を17作品と合計24作品が入賞した。

また2022年8月開催の第23回高校生国際美術展でも団体部門の最優秀賞である「最優秀校賞」を受賞したほか、「秀作賞」を1作品、「奨励賞」を7作品、「佳作」を4作品と合計12作品が入賞した。

高校卒業後は多くの部員が美術系の大学、専門学校等に進学しアート、デザインの各分野で活躍している。

[相模原市]

神奈川文化賞未来賞

なかざわ あんな
中澤 安奈 (34歳)

●芸術●

彫刻家として活躍



湘南を拠点に木彫、石彫を制作し、発表を続ける彫刻家。

作品は、人を想起させる造形が主眼となりつつ、ときに大胆な抽象表現にも接近する。ユーモアや親しみ、素朴さを感じさせながらも、独特の聖性が宿っているのは、そこに「祈り」が込められているからであろうと評価されている。

衣だけで人の存在感を感じさせる代表的な作品群「婚礼の準備」シリーズでは、大学院時代の病臥の体験と祖母の召天から、聖書の「古い人を脱ぎ、新しい人を着せられる」という、人の内面的変遷と、未来と永遠へ向かう希望をテーマにしているという。

2022年3月の個展「祈りの淵から」も大きな反響を呼んでおり、確かな信仰、普遍的な人間のあり方を示す作品に、今後の活躍が期待されている。

横浜市立大学附属市民総合医療センター小児病棟ホスピタルアート、作品の表紙装丁に『水俣から一寄り添って語る』『水俣へ一受け継いで語る』（共に水俣フォーラム編、岩波書店）など。

2012年 東京藝術大学卒業修了制作展 第6回荒川区長賞を受賞。

2014年 東京藝術大学卒業修了制作展 第8回東京都知事賞を受賞。

2017年 第53回神奈川県美術展 美術奨学会記念賞を受賞。

2018年 第14回大分アジア彫刻展 優秀賞を受賞。

[非公表]